

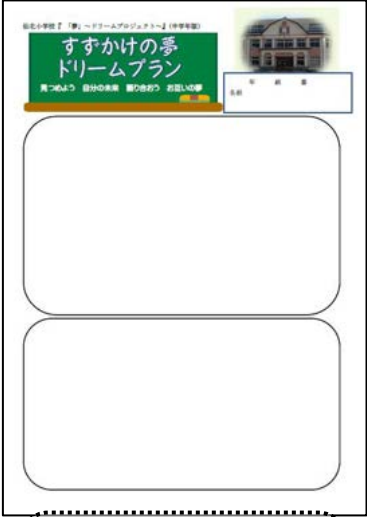
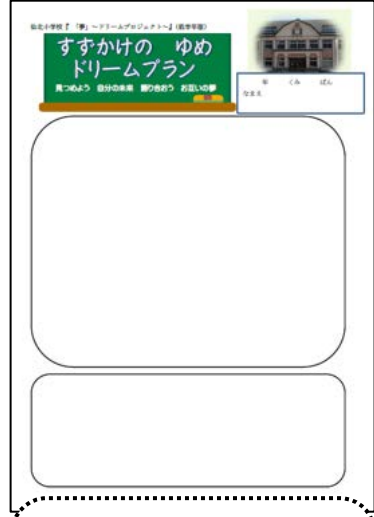

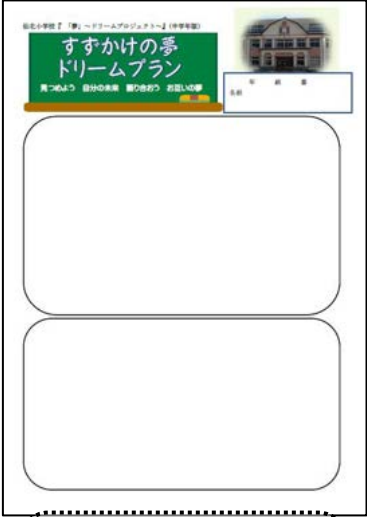
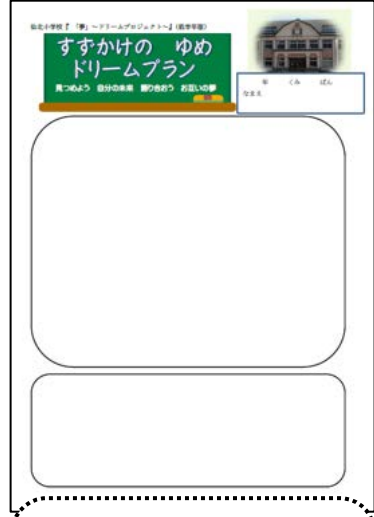

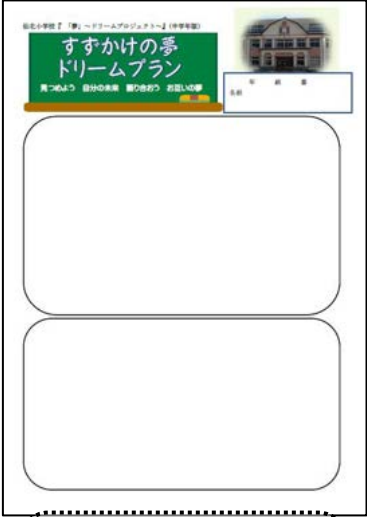
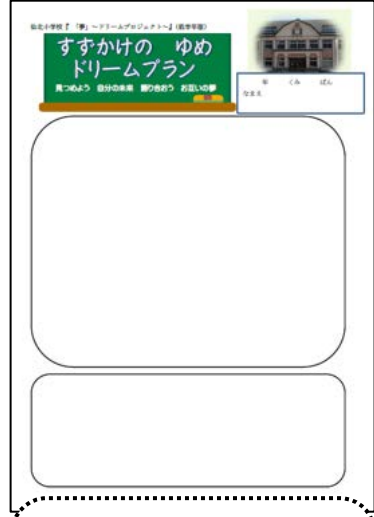

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【岩手県・盛岡市】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	盛岡市立仙北小学校 5・6年生 233名 保護者 5名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間)
4 目標 (ねらい)	・オリンピック・パラリンピックの価値を、オリンピック・パラリンピアンから直接学ぶことで、児童が深く理解することができるようにするとともに、スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）について理解できるようにする。
5 取組内容	<p>ア 事前学習（講演会に向けての学習） ・初瀬選手についての学び ・初瀬選手への質問事項</p> <p>イ オリンピック・パラリンピック講演会（5・6年対象） ・初瀬選手からの講演・実技研修・質問 等</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>①</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>③</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>④</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①講演の様子 ②実技研修（組み手） ③全体での記念撮影 ④お見送りの様子 ※この他、初瀬選手への質問で学びを深めた。</p> </div> <p>ウ オリンピック・パラリンピック教育（5・6年対象） ・オリンピック・パラリンピック教育（オリ・パラの価値、共生社会について）</p> <p>エ 仙北小学校ドリームプロジェクト（全校児童対象） 夢をもち、夢を語る全校集会の実施</p>
6 主な成果	・講演から、「パラリンピックは、少しの工夫で『共生』できると教えてくれるものであること」、「夢」をもつこと、「夢」を応援することの重要性について学ぶことができた。インクルーシブな社会を創造するための考えに触れることができた貴重な機会となった。



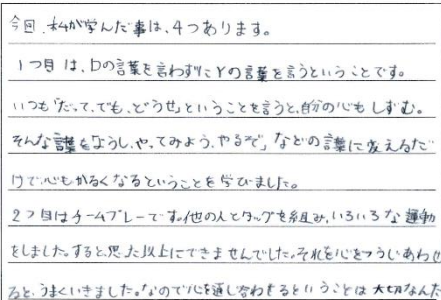
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>仙北小学校ドリームプロジェクトについて (今後の計画)</p> <p>3つのねらい</p> <table border="1" data-bbox="308 197 1487 443"> <tr> <td data-bbox="308 197 699 443"> <p>【オリ・パラ教育】 オリ(卓越・友情・敬意/尊重)、パラ(勇気・決意・平等・インスピレーション)の価値と共生社会</p> </td> <td data-bbox="707 197 1082 443"> <p>【キャリア教育】 将来を見つめ、自らの生き方を考え、行動する力、目標実現のため主体的に努力する態度の育成</p> </td> <td data-bbox="1090 197 1487 443"> <p>【復興教育】 自分自身の未来を創造する人間、郷土を愛し、岩手の復興・発展を支える人材の育成</p> </td> </tr> </table> <p>ドリームプランの作成</p> <p>自分の夢を考え、それを交流するため、個々の「ドリームプラン」を作成した。作成したプランは、学級内で発表し、お互いの夢を交流し、尊重しあった。</p> <table border="1" data-bbox="331 593 1465 1294"> <tr> <td data-bbox="331 593 699 1108">  </td> <td data-bbox="707 593 1082 1108">  </td> <td data-bbox="1090 593 1465 1108">  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 1108 699 1294"> <p>低学年用プランシート 自分の夢と、それに関するイラストを記入する。</p> </td> <td data-bbox="707 1108 1082 1294"> <p>中学年用プランシート 自分の夢と、それを具現化するために頑張ることを1項目考え、記入する。</p> </td> <td data-bbox="1090 1108 1465 1294"> <p>高学年用プランシート 自分の夢と、それを具現化するために頑張ることを9項目考え、記入する。</p> </td> </tr> </table> <p>すすかけの夢交流会の実施 (3月11日 全校集会)</p> <p>東日本大震災にかかわって、岩手の復興教育と関連させた「すすかけの夢交流会」を実施する。全校で集まり、学年代表の「夢」を交流し、互いの夢を尊重しあうとともに、自らの未来や岩手の未来について希望を持たせる会としたい。</p>			<p>【オリ・パラ教育】 オリ(卓越・友情・敬意/尊重)、パラ(勇気・決意・平等・インスピレーション)の価値と共生社会</p>	<p>【キャリア教育】 将来を見つめ、自らの生き方を考え、行動する力、目標実現のため主体的に努力する態度の育成</p>	<p>【復興教育】 自分自身の未来を創造する人間、郷土を愛し、岩手の復興・発展を支える人材の育成</p>				<p>低学年用プランシート 自分の夢と、それに関するイラストを記入する。</p>	<p>中学年用プランシート 自分の夢と、それを具現化するために頑張ることを1項目考え、記入する。</p>	<p>高学年用プランシート 自分の夢と、それを具現化するために頑張ることを9項目考え、記入する。</p>
<p>【オリ・パラ教育】 オリ(卓越・友情・敬意/尊重)、パラ(勇気・決意・平等・インスピレーション)の価値と共生社会</p>	<p>【キャリア教育】 将来を見つめ、自らの生き方を考え、行動する力、目標実現のため主体的に努力する態度の育成</p>	<p>【復興教育】 自分自身の未来を創造する人間、郷土を愛し、岩手の復興・発展を支える人材の育成</p>										
												
<p>低学年用プランシート 自分の夢と、それに関するイラストを記入する。</p>	<p>中学年用プランシート 自分の夢と、それを具現化するために頑張ることを1項目考え、記入する。</p>	<p>高学年用プランシート 自分の夢と、それを具現化するために頑張ることを9項目考え、記入する。</p>										
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育を中核に据えた年間教育計画の再検討と充実のための手立て ・学校、地域の連携によるオリンピック・パラリンピック教育の推進 ・発達段階に応じた本事業活用方法の明確化 											
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仙北小学校「ドリームプロジェクト」の中核として、本事業を継続する。 ・次年度は、さらに保護者、学校関係者、地域を巻き込んだ形で実施したい。 											

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	西和賀町立湯田小学校 講演 3～6年生 54名 実技 全校 76名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間等) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	本校の今年度の目標である「挑戦」について、オリンピックの競技への取り組みや努力、思いを知り、夢に向かって努力する姿勢やあきらめずに挑戦・努力する態度を養う。
5 取組内容	<p>① 訪問アスリートについての事前学習 (1時間)</p>  <p>② 福田選手からの講演・実技講習 (2時間)</p>  <p>③ 講演・実技を終えての感想文作成 (1時間)</p> 


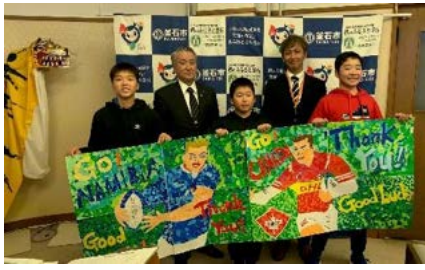
6 主な成果	<p>福田さんの講演を聞き、自分の考え方次第で結果につながると感じた様子で、これからの生活を改善していこうという前向きな気持ちをもった児童が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつでも明るく元気にあいさつをすれば、まわりのみんなが元気でえがおになるということが、心にのこりました。」（2年生） ・「えがおですぐすと、人生が変わると分かりました。楽しいという意味は、自分だけじゃなくて、チーム全員が楽しいのが本当の楽しいだと分かりました。『だめ』や『できない』という言葉を使うと、その時点であきらめちゃうから、『できる』『やるぞ』という言葉を使って、生活していきたいと思いました。」（3年生） ・「人に助けってもらったら、ありがとうを言って、こまっている人がいたら、助けてあげたいと思いました。」（3年生） ・「ぼくが学んだことは、弱音を最初からはかずに、まずは挑戦するということです。弱音をはくと、本当はできるのに挑戦しないということと同じになってしまうので、まずは挑戦するということが大事だということ学びました。」（4年生） ・「私は大きな親切をしてもらったときにしか、心から『ありがとう』と言ってませんが、小さなことでも心から『ありがとう』を言い、良いことをすると必ず自分に返ってくることを考えながら、スポーツでも生活でもがんばります！！」（6年生）
7実践において工夫した点（事業の特色）	<p>本校は全校児童数76名という小規模校であるため、講演は3～6年生、実技では全校でアスリートの実技を見たり、ゲームをしたりして、楽しみ、感動することができた。</p> <p>有名選手と出会えたことで、児童たちのやる気を引き起こすことができ、貴重な機会となった。</p>
8主な課題等	<p>訪問アスリートがなかなか決まらなかった点</p>
9来年度以降の実施予定	<p>東京オリンピック・パラリンピック2020の実施年にあたり、パラリンピックについても学習を深めていきたい。</p>

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	釜石市立鶴住居小学校 5年生22名 6年生36名 計58名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラアスリートとの交流を通して、アスリートとしての生き方や考え方を理解し、自分の生活を見つめようとする態度を養う。 ・ラグビーワールドカップの試合観戦の経験をもとに、同じく世界的スポーツイベントであるオリンピック・パラリンピックに対する関心を高め、理解を深める。
5 取組内容	(0) 防災復興教育、ラグビーワールドカップに関する学習 <ul style="list-style-type: none"> ・全校…クリーン作戦（スタジアム周辺の清掃活動） 試合観戦（フィジーvs ウルグアイ） ・5・6年生「ラグビーの歴史、4か国について学ぼう」 ・5年生：総合「どのような支援を受けてきたか考えよう」 ・6年生：総合「ウエルカムカードを作ろう」 総合「カナダ、ナミビアに感謝を伝えよう」 (サンキューボードの作成) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【クリーン作戦】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【サンキューボードの贈呈を市長に依頼】</p> </div> </div> (1) 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> ・太田渉子さんについて（経歴等） ・パラリンピックについて（「I'm POSSIBLE」の活用）

(2) 太田渉子さんとの学習

11月19日(火) 5・6校時

- ・講演「挑戦って、楽しい」
- ・実技 テコンドー体験（動き作り、ミット蹴り）
- ・質問、感想交流、合唱

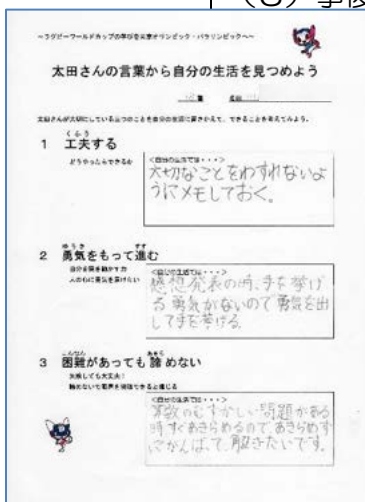


【太田さんによる講演】



【テコンドー体験】

(3) 事後学習



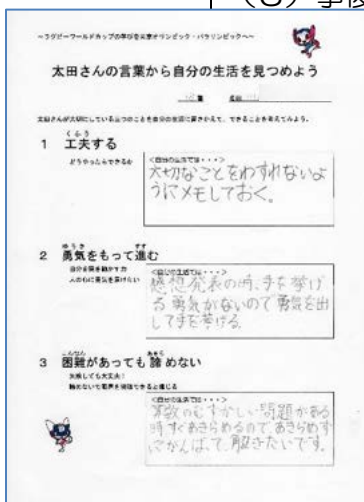



- ・お礼の手紙の作成
- ・ワークシート記入「自分の生活を見直そう」
- ・「いのちの教育」(道徳科：授業参観)
5年生「コースチャぼうやを救え」
6年生「義足の聖火ランナー ～クリス・ムーン」
- ・全校朝会…太田さんの言葉を1～4年生にも紹介



【自己を見つめるワークシート】

【全校朝会で紹介】

	<p>(2) 太田渉子さんとの学習 11月19日(火) 5・6校時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演「挑戦って、楽しい」 ・実技 テコンドー体験（動き作り、ミット蹴り） ・質問、感想交流、合唱  <p>【太田さんによる講演】</p>  <p>【テコンドー体験】</p> <p>(3) 事後学習</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・お礼の手紙の作成 ・ワークシート記入「自分の生活を見直そう」 ・「いのちの教育」(道徳科：授業参観) 5年生「コースチャぼうやを救え」 6年生「義足の聖火ランナー ～クリス・ムーン」 ・全校朝会…太田さんの言葉を1～4年生にも紹介  <p>【全校朝会で紹介】</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パラアスリートとの出会いは、ほとんどの児童にとって初めての経験であり、パラリンピックに対する関心を高めることができた。 ・太田さんが大切にしていること（「工夫する」「勇気をもって進む」「困難があっても諦めない」）や演題の「挑戦って、楽しい」、ルートヴィヒ・グッドマンの「失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」など講演で紹介された言葉は児童の心を打つものであり、これらの言葉をもとに自己を見つめ直すことができた。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ラグビーワールドカップでの学びを東京オリンピック・パラリンピックへ」の視点から、既存の行事や学習の内容（総合的な学習の時間、道徳科、授業参観など）を再構成して学習を進めたことにより、児童の学びに継続性が生まれ意欲を高く保ったまま学習を進めることができたと同時に職員は負担感を感じずに指導に当たることができた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業日程やアスリートの選定が必ずしも希望通りとは行かないことから年間指導計画の内容に幅を持たせる必要がある。 ・ラグビーワールドカップとは異なり、競技会場や事前キャンプ地が近くにないため、いかにして児童に当事者意識を持たせ、主体的にオリンピック・パラリンピックに関わらせるかが課題である。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・復興教育、キャリア教育の視点から、総合的な学習の時間や道徳科の年間指導計画にオリ・パラ学習を位置付け実践する。 ・「復興五輪」のテーマを具現化する取組を模索し、実践する。（「復興『ありがとう』ホストタウン」事業の取組など） ・パラテコンドー：太田渉子さんの応援または報告会を実施する。

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 III 】	
2 実施対象者	盛岡市立見前中学校 2学年165名・特別支援学級15名	
3 展開の形式	学校における活動 教科名（保健体育・特別の教科道徳・総合的な学習） その他（県立盛岡となん支援学校との交流会）	
4 目標 (ねらい)	<p>(1)パラリンピック競技大会の意義、価値、歴史、種目などについて学習を深めることで、障がいの有無に関わらずできるスポーツについての興味・関心を高める。</p> <p>(2)パラリンピックの実際に触れることで、スポーツは、障がいの有無などを越えて人々を結び付ける文化的な働きがあることを理解する。</p> <p>(3)パラリンピック選手との交流を通じ、生き方や競技に取り組む姿勢を知り、自分の生活や障がい者理解、インクルーシブな社会づくりに活かそうとする。</p>	
5 取組内容	<p>2学年</p> <p>1.保健体育 (1)オリパラの意義、価値、歴史、種目等の学習 (2)〈ボッチャ〉〈車いすアスリート〉に関する学習と動画視聴 (3)ボッチャ実技</p> <p>2.特別の教科道徳 「今度は私の番だ」東京書籍 新しい道徳 義足の選手として、アテネ・北京と2大会連続でパラリンピック出場を果たした、佐藤真海さんの生き方から考える</p> <p>3.総合的な学習の時間 (1)福祉体験学習 車椅子、白杖、アイマスク体験 (2)講演と実技 元車いすバスケット全日本選手 根木慎志氏をお招きして</p> <p>4.まとめとして 壁新聞・学級新聞でのまとめ</p>	<p>特別支援あすなろ学級</p> <p>1.保健体育 (1)〈ボッチャ〉〈車いすアスリート〉に関する学習と動画視聴 (2)車椅子体験とボッチャ実技 (3)車いすバスケットと根木慎志氏との交流会</p> <p>2.まとめとして 掲示物の作成</p> <p>ボランティア委員会</p> <p>岩手県立盛岡となん支援学校とボッチャ、卓球バレーをしながら交流会を行った。 2年生のメンバーが中心となって、それまでの学習で学んだことを活用しながらの実践となった。</p>

		
<p>佐藤専門員のポッチャの説明がとてわかりやすかった。</p>	<p>車椅子に乗るのは大変だとわかった。ポッチャは楽しかった。</p>	<p>根木さんの話を一生懸命聞いたので、感じたことを文章にできた。</p>
		
<p>リリースは本人、介助者とコミュニケーションをとるのが難しいと知った。</p>	<p>「友達になってくれる？」そう根木さんに言われてうれしかった。</p>	<p>バスケットボール部だけけど難しかった。代表選手を応援したい。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>(1)保健体育科が中心となり、事前学習や実技の実施、評価(期末テスト問題として出題)等の取組をしっかりと行ったことにより、ねらいの(1)・(2)を達成することができた。</p> <p>(2)学年として、横断的に取り組みができたことにより、効果的にねらいの(3)を達成することができた。また、「はがチャレ(日本代表選手に応援メッセージを送る)」や修学旅行といった取組に発展させている。</p> <p>(3)この取組全体やこれからのあすなる学級とのコミュニケーションづくりについて記事にして新聞を発行した学級がある。インクルーシブ意識が芽生えてきたと感じている。</p> <p>(4)自分の障がいについて悩み、登校をしぶっていた生徒が、根木さんとの出会いも1つのきっかけにして、学校に来る日数を少しずつ増やしている。また、親も学校への信頼感を高めてくれたと感じる。</p>	
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1)カリキュラムマネジメントの視点から、本校の校内研究である「キャリア教育」の中に位置づけ、教科横断的に実践した。</p> <p>(2)2020年度に継続し、主体的で発展的な実践にしていくことを念頭におき、2年生を対象学年とした。</p> <p>(3)まだまだインクルーシブ教育が不十分である現状から、普通学級と同様に特別支援学級でも実践を行うこととした。</p> <p>(4)学年や学級といった集団への働きかけだけでなく、実際に足に障がいを持つ生徒への個別の教育支援の重要な機会として取り組んだ。その意図を理解してもらうために、派遣側の団体とは何度も交渉や打ち合わせを行った。</p>	
<p>8 主な課題等</p>	<p>(1)オリパラの推進や校内のインクルーシブ推進のための学習や活動を教員主導の実践から、生徒らが主体的に取り組むものにつなげていくこと。</p> <p>(2)推進の意義を全校、全職員、家庭、地域へと広げていくこと。</p>	
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>(1)修学旅行のテーマの1つとして、探求学習につなげていく。</p> <p>(2)生徒会活動や委員会活動につなげていく。</p> <p>(3)ポッチャを親子や地域行事に取り入れていく。</p>	

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	岩手町立沼宮内中学校 全校生徒177名 職員20名 保護者8名 計205名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (道 徳)
4 目 標	今年度、全校で重点を置いて取り組んでいる「全力」「挑戦」について、講演や実技を通してさらなる価値付けをし、今後の教育活動を充実させる契機とする。
5 取組内容	<p>(1) 講演会の実施 オリンピックの意義や価値、競技に取り組む際心がけてきたこと、卓越した技術を持つに至る過程でのさまざまな体験談、メンタルの整え方、築くことができた人間関係や友情、対戦相手や指導者・支援者への敬意・尊重に関すること等に触れた講演を依頼し実施した。</p>  <p>(2) 実技 ①卓球部生徒とのハンディキャップマッチシングルス2試合</p> 

②オリンピックと校長のダブルス対生徒ダブルス 1試合



上記試合を全校生徒が見学した。

<p>6 主な成果</p>	<p>本校では、今年度の重点として「全力」「挑戦」を掲げ、全教職員・全生徒で学校行事、部活動、日々の教育活動に一丸となって取り組んでいる。この2つの重点について講演や実技の中で触れていただいたことで、現在の自分たちの取組についてさらなる価値付けをしていただいた。結果として、本事業が今後の教育活動を充実させる大きな契機になり得たと考える。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>実技を全校生徒の前での卓球部生徒とオリンピックのハンディキャップマッチにしたこと。 オリンピックと実際に試合をした卓球部生徒は、本物の技術と対峙し貴重な体験をすることができた。また観戦した全校生徒も、卓越した技術に触れ感動するとともに、試合の1球1球に歓声が上がるとともに、おおいに盛り上がり、楽しく有意義な時間を過ごすことができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし ・素晴らしい事業である
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックやパラリンピックの訪問機会があればぜひ立候補したい。

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【岩手県】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	学校名 紫波町立紫波第三中学校 対 象 全校生徒111名（男子53名、女子58名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	・オリンピック、パラリンピックについて学び、様々な形でスポーツに親しもうとする資質を養う。 ・パラリンピックについて深く知ることにより、スポーツを通じて共生社会の構築に積極的に関わっていかうとする資質を養う。
5 取組内容	①オリンピック・パラリンピックについて知る。 各学年、体育理論の学習の中で、「I'm possible」の教材を用い、多様な関わり方、社会性の発達に及ぼす効果、人々を結びつける文化的な働きと関連付けて指導を行った。 ②パラリンピック種目体験 体育の時間に2時間扱いで「ボッチャ」を体験した。面数を確保するため簡易コートで、ペアによる対戦を中心に行った。ルールは通常のルールで行った。 3年生には、障害の種類をくじ引き方式でその都度決め、ハンデ戦も行った。 ③オリンピックの講演と実技講習 シドニーオリンピック女子マラソン競技に出場した市橋有里さんを講師に迎え、「チャンスをつかむ3つの方法」と題した講演会と、走り方の基本を実技講習で指導していただいた。 ④一連の学習を通して学んだこと、考えたことを感想としてまとめた。

<p>6 主な成果</p>	<p>一連の取り組みの成果として、生徒の感想からオリンピック、パラリンピックへの関心が高まっただけでなく、今後の生活において前向きに頑張っていきたいという思いを持たせることができた。</p> <p>【①②の取り組みの感想から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年のオリンピック・パラリンピックでは現地に行けないかもしれないが、全ての選手を応援し、一緒にたくさんのことに挑戦していきたいと思うことができた。 ・これから私たちは、現状を理解し、個人の個性を大切に生きていかなければならないと感じた。誰もが笑顔で楽しく、スポーツや学習、仕事をし、ともに生活していけることが「共生社会」だと思う。 ・パラリンピックは面白くないと思っていましたが、今回の学習を通して、障害を持っている人たちがくじけずに自分の目標に向けて一生懸命競技に取り組む姿は、見ていて美しいなと思うようになりました。 ・パラリンピックのカッコよさ、会場の様子、一生懸命に世界と戦っている姿を見て、実際に会場に行って観戦したいと思った。パラリンピックももっとメディアに注目されるべきだと思った。 ・障害を持った方もスポーツを楽しめ、競うことができる環境を整えることが大切だと思った。 ・パラリンピックの選手は不自由なところがあっても挑戦してすごいなと思った。また、その人たちのために器具を作ったり、サポートしてくれる人たちが沢山いることも初めて知った。 ・パラリンピックの動画を見て、未来が変わりそうだと感じた。 ・パラリンピックは障害を持った人と、障害のない人が協力したり、差別のない大会で、将来できればボランティアなどになりたいと思いました。 <p>【市橋さん講演会の感想から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私もこれからは、失敗してもチャレンジし夢をかなえたいと思いました。 ・人生の中で自分が目標や夢を持った時には、今日の話思い出してチャンスをつかめる人間になりたいと思いました。 ・私も市橋さんのようないつも笑顔で明るくて、たくさんの人々を助けられるような人になりたいです。 ・何事にも人との関わりは欠かすことができないということを改めて実感した。これからはもっとたくさんの人と関わり、日々努力をして生活していきたい。 ・私も人との出会いを大切に、毎日の一秒一秒を大切にしながら過ごしていきたいと思いました。 ・最初からあきらめず、大きな夢を掲げ、前向きに生きていきたいです。そして、なりたい自分になれるように努力していきます。 ・市橋さんは中学校の時にあった体験や出会いが今につながっているとおっしゃっていて、わたしもこれからの出会いや体験を大切にしていきたいです。 ・初めてオリンピック選手に会うことができうれしかったです。特に「周りの人に感謝する」という言葉が印象に残り、これからの生活で大事にしていきたいと思いました。 ・自分もあきらめずに前向きにいろいろなことに取り組んでいきたいです。
---------------	---

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャ体験では、面数を確保するために簡易コートを作成して取り組んだ。また、3年生には実際に身体的なハンデをもって競技に挑戦させることで、障害を持った方々の気持ちに目を向けさせることができた。 ・体育理論における内容とリンクさせながら授業を行うことで、より理解が深まった。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会の開催時期をもう少し早い時期にできればよかった。12月はとても寒かった。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ予定としてはないが、とても良い取り組みだと思います。

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	西和賀町立湯田中学校 全校生徒 54名 職員・旧職員・保護者・地域住民 66名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (創立50周年記念講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピアンから直接お話を伺うことを通し、スポーツ文化やスポーツが持つ価値などを理解しながら、生徒達が自分の生き方・人生を考える良い機会とすると共に、2020年東京オリンピック・パラリンピックに対する関心を高める。
5 取組内容	(1) 事前学習 講演会に先立ち、2019オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について説明。その中で、オリンピック・パラリンピックの意義、そして、オリンピック・パラリンピアンから直接学ぶ事の意味と価値について触れながら、今回の記念講演の講師である藤沼亜衣氏についての紹介を行った。 (2) 記念講演会 2000年シドニーオリンピック、2004年アテネオリンピック卓球競技日本代表として出場した藤沼亜衣氏から「卓球が与えてくれたもの」と題して講演を頂いた。 小学生で卓球を始め、中学生時代から全国大会で活躍し、高校生で日本代表に選ばれて以来10年以上も国内外のトップ選手として活躍してきた、その豊富な経験から様々お話を聞くことができた。 特にも、運良くシドニーオリンピックに出場はしたものの、非常に悔しい思いをしたこと。そして、4年後のアテネオリンピックで、そのリベンジを必ず果たすと決め、卓球に向かう姿勢を見つめ直し、新たな環境で全力で取り組んだことなど、日本代表選手であるからこそその様々な苦労や喜び、そして、人との関わりを大切にしてきたことで、世界で活躍するプレイヤーになれたというお話が印象的であった。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 講師から頂いた生徒への4つのメッセージ <ol style="list-style-type: none"> 1 「挑戦すること」 挑戦することで見えてくるものがある。たとえ失敗しても必ず得るものがある。たくさんの失敗から成長できるので、恐れず挑戦してほしい。 2 「周りの支えに対し感謝すること」 人は影響がなくては成長できない。人との繋がりがチャンスにつながる。 3 「運をつかむこと」 夢をつかむためにはネガティブな発言はしないようにする。愚痴を言うとうまく進まないし、いやなことが起こる。ポジティブな発言を心がけることで運が向いてくる。 4 「気づくこと」 今までとの違いに気づく。気づいただけで一歩前進。うまくいかないときは気づけない。気づけることが大切。 • 今回のオリンピックに限らず、本物に直接触れる機会が少ないので、オリンピックから直に様々な考えや生き方を学ぶことができたことが一番の成果である。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒達がより興味を持ちやすいように、部活動の設置がある競技、あるいは小学校体育や中学校保健体育の授業で経験したことがある競技に関わるオリンピックを選定して頂いた。 • 記念事業の一環であることから、広く地域の方々にもアナウンスした。





8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピアンに来て頂く良い機会ではあったが、創立記念講演会として行ったため、実技を関連させた内容は盛り込むことができなかった。 • 記念講演会の期日（11月上旬）がすでに決まっており、その日程に合わせて、しかも、競技もこちらの希望に合わせた講師を派遣して頂き大変ありがたかったが、決定が9月の半ば過ぎであったため、記念講演会に講師の名前を入れての案内ができなかった。8月中までに決定して頂ければ、もっと広くアナウンスできたと思う。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度は、記念事業の一環として行ったため、来年度以降の実施については未定であるが、実施するのであれば、実技を伴う内容で行えればと考える。

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I、III、V 】
2 実施対象者	奥州市立水沢中学校 講演 1・2・3学年生徒 466名 実技 2学年生徒 155名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」と、「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」を通じて、オリンピックの理念（オリンピズム）、パラリンピックの理念及びオリンピック・パラリンピックの価値について学ぶとともに、チャレンジ精神やフェアプレイ精神などのスポーツの価値、障がいのある方や海外の文化・社会などの多様性を理解できるようにする。
5 取組内容	(1) 事前学習 ① 「オリンピック、パラリンピック・ムーブメント」、「オリンピック・パラリンピック教育」等についての学び ② 講師芦田創氏についての学び (2) 講演会（全校生徒対象） ① 芦田創氏による講演 演題「より遠くへ」   ② 陸上教室（2学年生徒対象）  

③ その他



<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 芦田創氏の講演に生徒・教職員が引き付けられた。本校の目指す生徒の姿「相手との関わりを通して多様な見方や考え方に触れ、自分自身を高めることができる生徒」にかかわる内容であるとともに、本事業のねらいに迫る有意義な時間となった。(講師 芦田創氏を本校にマッチングしていただいた県教委、ESNINE 野口氏に感謝)</p> <p>(2) 様々な悩みを抱え揺れ動く中学生の心に響く芦田創氏の講演であった。それぞれの立場で自分自身を振り返り、考え、決意を新たにす機会となった。</p> <p>【心に響いた言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でコントロールできないことをコントロールするのはよくない。 ・ 自分が頑張る意味を分かっている人は強い。 ・ 自分を受け入れ、向き合った結果、周りから認められることが自分の喜びになる。 ・ 自分の可能性を信じてあげることが人生では大事である。 ・ 人は頭が良くなってくると人と比べてしまう。そうすると自分の嫌なところが見えてくる。自分の良いところを見つけ、自分を受け入れることが大切。 <p>(3) 芦田創氏を通じて、芦田氏の患った病気、障がい、パラリンピックについての理解が深まるとともに、2020年オリンピック・パラリンピックへの関心を高めることができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>2020年9月に実施予定の修学旅行において、パラリンピック観戦を中心に据え、事前・事後の学習に取り組む計画としている。</p> <p>本事業の実施内容であるパラリンピアン芦田創氏による講演や授業を修学旅行取組の一環とすることで、障がい者の理解、豊かな国際感覚等、これからの共生社会を生きる上で必要な資質をより効果的に育むことができると考えた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>(1) オリンピック・パラリンピック教育を位置づけた年間指導計画の整備。</p> <p>(2) 教職員のオリンピック・パラリンピック教育についての理解。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピアン・パラリンピアンから学ぶ貴重な機会であった。可能であれば実施したい。</p>

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I・III 】
2 実施対象者	山田町立豊間根中学校 実技講習 33名（1・2年生） 講演 50名（1・2・3年生） オリパラ授業 学年ごとに実施
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに関わる学習を通し、スポーツが持つ魅力や文化としての価値を学ぶとともに、様々な分野のアスリートの生き方に触れることで生徒自身がこれからどのように生きていきたいかを考える機会とする。
5 取組内容	【オリパラ授業の展開】 ① オリンピック・パラリンピックの歴史や意義についての学習（1時間） ② ボッチャ・ゴールボール体験（ボッチャ：2時間 ゴールボール：1時間 計3時間） ③ パラリンピアンを招いての実技、講演 ④ 講演、実技を終えての感想文作成（1時間）
6 主な成果	① オリンピック・パラリンピックの歴史や意義についての学習 「I'm possible」の教材を用いて授業を展開することで、楽しみながら興味をもってオリンピック、パラリンピックについて学ぶことができた。 ② ボッチャ・ゴールボール体験



用具を借用し、体育館で体験授業を実施した。全学年で実施し、実際のパラリンピックスポーツを体験することで、学んだ知識や意義を、体験を通してさらに深めることができた。また、生涯スポーツに通ずるスポーツの良さも実感することができた。どちらも用具さえあれば容易に学校で実施できるものであることがわかり、今後の導入を検討していきたい。

③ パラリンピアンを招いての実技、講演

- ・実技では走り方を通して今までの自分を少し変えることの意義についてわかりやすい実演を用いてご指導いただいた。
- ・走り方のコツをコンパクトに提示していただき、楽しく体を動かしながら実技を行うことができた。




④ 講演、実技を終えての感想文作成

- ・事後学習としての感想文作成では、すぐに書き出す生徒ばかりで講演がとても印象に残るものであったことが窺えた。
- ・目標設定の大切さや、困難に直面した時の気持ちの持ち方を含め、どう生きるかという人生観に関わる大切なことを学ぶことができる貴重な講演だった。

～生徒の感想文より～

- ・自分に甘えないで行動することが大切だということを改めて理解しました。失敗を何度も重ねた分、成長できるのだなと思いました。
- ・自分をもっと信じることと、自分を好きになるということが大切であることに気付きました。
- ・目標とビジョンを二つに分けて考えて、具体的な目標をどんどんクリアしていくと最終的にビジョンになるということを学びました。
- ・一番印象に残った言葉は「障がい者に対して、かわいそうと人を区別する社会が害」です。その人から見ればどこもおかしくなく普通なのに、そのことをかわいそうと勝手に思うのは失礼だと思いました。
- ・はじめは大変でもあきらめなければチャンスはあるので、何があってもあきらめずに頑張ろうと思いました。
- ・やはり自分の人生なので、自分のやりたいことをやるのが一番良いのかなと思いました。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で50名という少ない人数を活かし、全校での実施とすることにより、学校全体でアスリートから受ける感動や学びを共有することができた。 ・ウェルカムボードを作成することで、訪問アスリートの方とより距離を近づけた状態で接することができた。 
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会が夏ごろに行われていることにより、本事業の学校での実施が秋から冬にかけての数か月の期間内になるために、実施時期の選定が難しいと感じた。様々な行事が次々と入ってくると実施時期の調整がうまく図れない可能性が高まることが予想されるので、年度初めや前年度末までに応募や説明会を済ませ、年度の中で実施時期を広くとって調整できるようになる(理想は年間計画に組み込める)と円滑な実施が可能なのではないかと考える。 ・実施時期によって候補が変わることは理解できるが、対応可能アスリート及びアスリートが対応できる日にち(もしくは時期)などを明記した一覧などが説明会かその前後までにあると、より学校の実態にマッチした希望申請ができるのではないかと思う。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年は東京2020五輪の開催年であることから、保健体育の授業を要しながら様々な教育課程の中で関連付けてオリンピック、パラリンピック教育を展開していきたい。 ・体育理論におけるスポーツの意義への理解を深めさせ、「行う」「見る」「支える」「知る」の視点から様々な関わり方を生徒に選ばせながら自国開催の五輪に向けた興味関心を高めていきたい。 ・本校は今年度をもって閉校することから来年度以降の本事業の実施は統合先の学校の意向や判断によって決まることになるが、スポーツへの理解を深め、アスリートと触れ合う機会のある本事業を統合先の学校でも実施してもらえるように、前向きな働きかけを行っていきたいと思う。

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書



- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名

【 岩 手 県 】

1 実践テーマ	【 II 】
2 実施対象者	二戸市立金田一中学校 第1学年49名、第2学年36名、第3学年55名、合計140名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>①教科名（保健体育、道徳）</p> <p>②行事名（運動会、文化祭）</p> <p>③その他（特別活動、総合的な学習の時間）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①イベント名（二戸地区中学校総合体育大会、新人大会）</p> <p>②その他（二戸地区中学校駅伝競走大会）</p>
4 目標 (ねらい)	豊かなスポーツライフの実現のための資質・能力の育成に向けて保健体育科授業の充実を図るとともに、カリキュラム・マネジメントの視点から、いわての復興教育を推進し、他の人々や社会のために役立ち自分が価値ある存在であることを実感できるようにする。
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>①4月 保健体育科授業の開始 年度初めのオリエンテーションにおける相手の立場を理解しての公平、共生、協力、公正等の共有</p> <p>②4月～ 道徳 思いやり、感謝、相互理解、友情等 考え、議論する道徳</p> <p>③5月 特別活動 学校行事 運動会 「する、見る、支える、知る」等の多様な関わり方の設定</p> <p>④6・8・9月 地区中学校総合体育大会、駅伝競走、新人大会 複数の会場を移動しながらの全校生徒による応援 大会が円滑に進行するように補助 選手がベストパフォーマンスを発揮できるようにサポート</p> <p>⑤10月 特別活動 学校行事 文化祭 全校生徒による演劇 いきる・かかわる・そなえる等を考える創作劇</p> <p>(2) 実践（イベント等） 11月 オリンピアンによる講演会</p> <p>①演題バトンパスはコミュニケーション</p> <p>②講師北京2008 オリンピック 4×100mR 銀メダリスト塚原直貴氏</p>



	<p>③内容オリンピックの価値「卓越」「友情」「尊重」 目標に向かって全力で取り組むこと、互いの理解を深めること、フェアプレイの大切さ 発信力、傾聴力、実行力、考え抜く力の重要性等</p>  <p>(3) 事後学習</p> <p>①11月 保健体育科授業の充実 各領域における技能、態度、知識、思考・判断のバランスのよい指導と評価とパラリンピックを取り上げた発展的な学習</p> <p>②12月 総合的な学習の時間 ホストタウンに関する出前講座 二戸市国際交流支援員によるガボン共和国選手への応援、笑顔のお迎え、おもてなし等の学習</p> <p>③12月 総合的な学習の時間 マナーアップ講演会 二戸地域振興センター職員による相手を思いやる心の大切さ等の学習</p>
6 主な成果	<p>(1) 仲間を思いやり、協力して生活する生徒等の増加</p> <p>①仲間を思いやり、協力して生活する生徒 91.8%→95.4%</p> <p>②清掃活動や係活動に協力して取り組む生徒 91.4%→93.6% (まなびフェストに係るアンケート調査結果1学期末→2学期末)</p> <p>(2) 社会や人の役に立つことをしたいと思う生徒等の増加</p> <p>①社会や人の役に立つことをしたいとおもいますか。 96.4%</p> <p>②スポーツをすることで、自分で考えて行動できたり、親しい友だちをつくったりできると思いますか。 94.2% (オリンピック・パラリンピックについてのアンケート結果(第2回))</p> <p>(3) その他</p> <p>①いじめ認知件数の減少</p> <p>②除雪作業の奉仕活動等に参加する生徒の増加</p> <p>③全校生徒による演劇が評価され、令和3年度全国中学校総合文化祭への出演の依頼</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>(1) 保健体育科授業の充実 各領域において、技能、態度、知識、思考・判断のバランスのよい指導と評価</p>  <p>(2) いわたの復興教育の推進 岩手だからできる教育、やるべき教育の実践の積み重ね</p> <p>(3) カリキュラム・マネジメントの充実 保健体育科で学習した成果を、特別活動や総合的な学習の時間等の教育課程上位位置付けられた活動や運動部の活動等の教育課程外の活動も含めた活動に生かすことができるよう配慮</p>
8 主な課題等	<p>オリンピック・パラリンピック教育の推進のために必要な人的・物的な体制の整備とさらなる教育課程に基づく組織的・計画的な教育活動の質の向上</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>(1) 4月 東京修学旅行のオリンピック・パラリンピック学習</p> <p>(2) 6月 東京2020オリンピック聖火リレーの参観</p> <p>(3) 7月 ホストタウンとしてのガボン共和国との交流 等</p>

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【I・III】
2 実施対象者	大槌町立大槌学園 4学年 61名 9学年 67名 計 128名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (4年生：社会 9年生：保健体育) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックにかかわる学習を通し、スポーツがもつ価値や、人々の結びつきについての理解を深めるとともに、共生社会に向けた理解推進の機会にする。 ・交流を通して、児童生徒が自分自身の夢や将来の目標をもち、目標に向かって努力するための手立てや計画づくりを考えるきっかけにする。
5 取組内容	<p>事前学習① ボッチャ・ゴールボールを体験しパラスポーツにふれる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー（県教委・ふれあいランド）に来ていただく ・学年ごとに体験する（9学年・4学年） <p>事前実践② 学年間交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼休みを活用し、事前学習で学んだボッチャを9学年と4学年で楽しむ ・ボッチャ大会を運営しながら、他学年と交流を図る



事前学習③ 体育理論「国際的なスポーツとその役割」について学習

- ・事前学習①で感じたことを共有しながら、スポーツがもつ魅力について考える
- ・オリンピック・パラリンピックのマークの意味や各大会の価値について学習し、パラリンピックに秘められた力について考える
- ・国際的なスポーツ大会から世界に広がるスポーツの魅力や人種や年齢、性別、障がいの違いを超えたスポーツの味わい方について考える



事業本時（11月20日 2・3校時）

1. 太田渉子さん自己紹介
2. 講義「挑戦って楽しい」（40分間）
 - ①オリンピック・パラリンピックの歴史
 - ②太田さんの経歴
 - ③テコンドーについて
 - ④気持ちのコントロールの大切さ
 - ⑤質疑応答



10分休憩（メダルにふれてみようタイム）

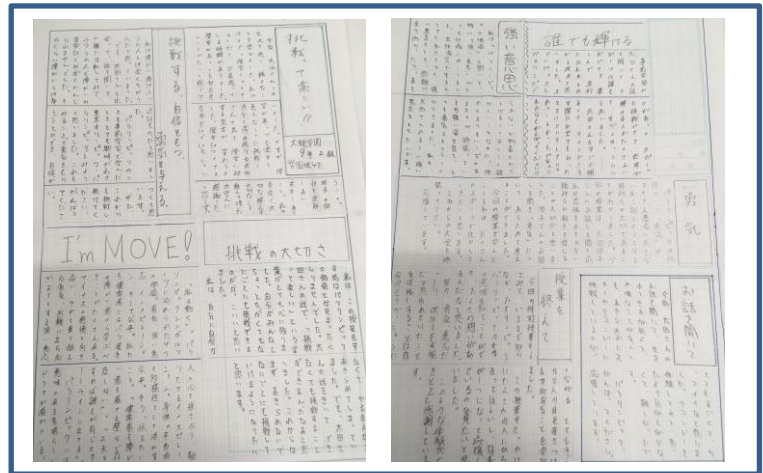
3. 実技「テコンドーに挑戦」（45分間）
 - ①2人組でコミュニケーションとウォーミングアップ
 - ②蹴り方とミットの扱い方説明と太田さんお手本示範
 - ③キック体験（6か所 129名）
 - ④感想・写真撮影

- ・急遽、生徒が児童のキックを受けることにしたが、すぐに太田さんにミットの指導をしていただいた



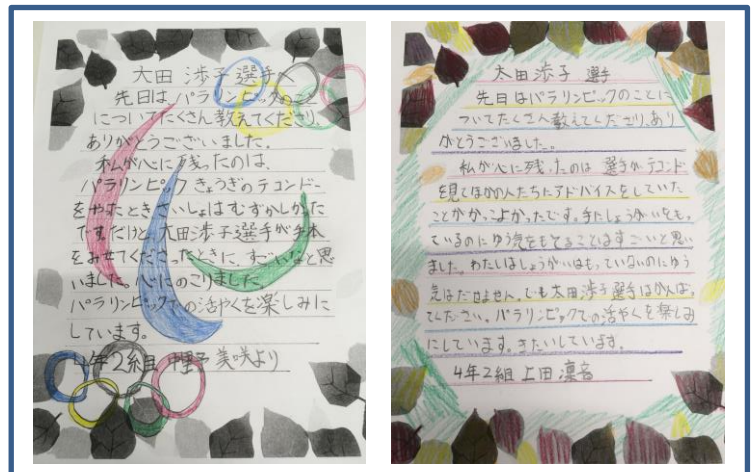
生徒の振り返りから（9年生）

- ・障がいを持っているからこそ、立ち向かうというのは勇気がいるし、さらに高みを目指すということは私たち健常者にとっても、とても意味のあることだと思うから見習いたい。事前学習の映像では、事を成し遂げて喜びを見せる姿を目にすると、ぐっと胸に来るものがあった、感動がよく伝わってきた。パラリンピックにも様々な人知れぬドラマがあらわれていることを知った。
- ・障がいのある人もない人も同じように楽しめるスポーツはすごいなと思いました。



・児童の振り返りから（4年生）

- ・心に残ったことは、障がいがあってもいろいろなことに挑戦していて、「挑戦」を「楽しい」と感じていることです。私はシャイなので、尊敬しています。
- ・パラリンピックのあのマークが、何かをハグしているように見えました。
- ・



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年の児童と生徒がお互いの発達段階を考えながら、一緒に活動することで、互いを思いやる行動が見られたり、相手に合わせたサポートやその声かけをしたりする様子が見られた ・児童は、障がいをもった方との交流、一流の方との出会い、メダルを手にしたこと、最高学年の先輩との交流等、この時間内で多くの刺激や様々な分野での良いきっかけになった ・パラリンピックについての理解や、それを支えている人たちの存在、様々な違いを越えたスポーツの魅力について考える機会になった ・自分がいま直面している壁と照らし合わせ、今回の学びを自分の将来や壁を越えるきっかけにしている人が多くいた
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックについて、事前に理解や興味関心を高めてから本事業に向かいたいと思い、パラスポーツにふれる事前学習を行った ・事前学習後、昼休み時間を活用し、学年交流を兼ねたボッチャ交流会を開催した
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中で、開催期日等が決まるので学習単元の計画に組み込むことに変更や時間がかかってしまうこと →競技だけでも早くわかると、年度当初の見通しが立ち、年間を通した単元の組み立ても行いやすいと感じた ・時間枠が思いの外、少なめだと感じました。講義と実技のセットで行うのであれば2時間は確保できれば実技や質疑応答、交流に深みを持たせることもできるのではないかと感じた
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・機会があればよろしくお願いします

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【岩手県・盛岡市】

1 実践テーマ	【I、III、IV、V】
2 実施対象者	岩手県立盛岡南高等学校 体育科 1年生（26名） 2年生（38名） 普通科体育コース 1年生（40名） 2年生（40名） 合計 144 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (体育学科・コース・学系連絡協議会三校合同研究会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○目的 オリンピック・パラリンピック・ムーブメントについて理解し、スポーツの社会的役割と課題を学ぶことを目的とする。 ○育成を目指す生徒像 ①自己を肯定し、自らの目標を持って、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人間 ②スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人間 ③日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人間 ④多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間 また、体育科・体育コース設置校として、以下のような教育効果を期待し実施する。 ⑤大会マネジメントの観点から、支えるスポーツを学びスポーツに対する視野を広げる。 ⑥生涯スポーツの観点やキャリア教育の一環として、スポーツへの様々な関わり方を学ぶ。

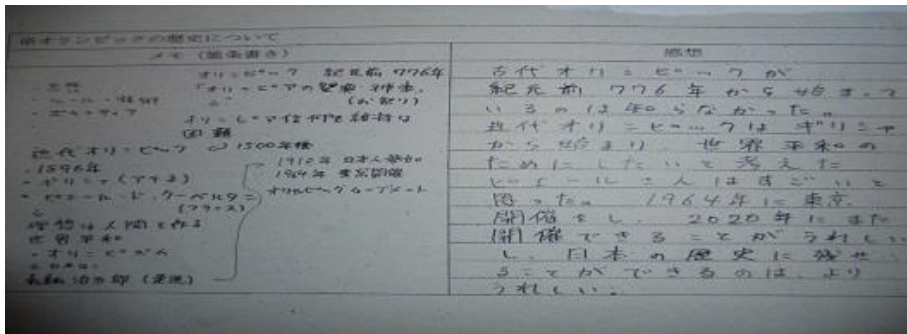
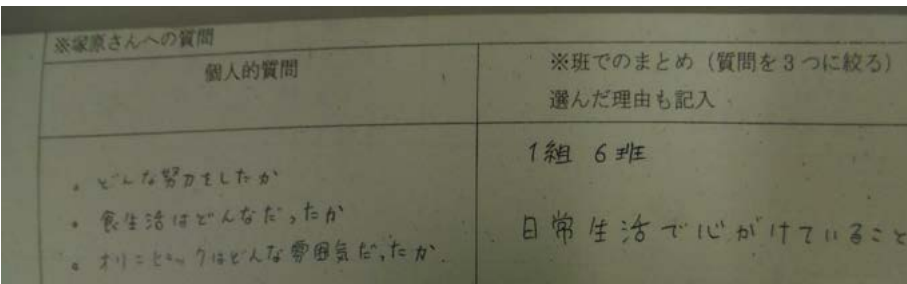
5 取組内容	<p>○事前学習 「オリ・パラ・ムーブメント全国展開事業」について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目的について <ol style="list-style-type: none"> ①スポーツの価値 ②オリパラの理念と教育意義 ③オリパラ教育の具体的内容 2 平成30年度の事業について <ol style="list-style-type: none"> ①実践の現状 3 アンケート記入 <p>○本事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講演（50分） 卓球・藤沼 亜衣氏（シドニー・アテネ五輪日本代表） <p>○事後学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アンケート記入 2 事後学習 <ol style="list-style-type: none"> ①本事業の目的の再確認 ②日々の取り組みについての再確認
6 主な成果	<p>アンケートをまとめると以下のような学びがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの本質（意義、価値等）についての理解度向上 ・2020東京オリパラに興味、関心が向上 ・多様性の尊重と共生社会の実現についての理解度向上 ・人としての心の持ち方、在り方を再考、再確認 ・パラスポーツそのものへの興味、関心の向上 <p>質問項目10すべてで数値の向上が見られ、オリンピック・パラリンピックへの興味関心、人間性、社会性、運動への関心等様々な面で成長がみられた。</p>
7実践において工夫した点（事業の特色）	<p>体育学系三校合同研修会（不来方高校、花巻南高校、盛岡南高校）の一部として実施したことで、学校単位だけでなく、体育を学ぶ多くの生徒に学ぶ機会を与えることができた。</p>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・三校の生徒を対象に行ったため、講演のみの実施となり、実技の講習を実施できなかった。 ・パラリンピックスポーツについて継続的に授業に位置づけ紹介する。 ・キャリア教育につながるよう、進路意識にもつながる取り組みを行っていく。
9来年度以降の実施予定	<p>来年度以降も継続して希望したい。</p>

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	岩手県立久慈東高等学校 全校生徒 518名 保護者・来賓 17名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (文化講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、オリンピック・パラリンピックの歴史や価値を学ぶとともに、実際にオリンピックの講演を聴くことで、スポーツを媒体とした社会全体の動きに目を向けさせ、広い視野を持たせる。 ・スポーツを通して、継続する学びの形成に結びつかせる。
5 取組内容	<p>(1) 授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業にてクイズ形式を活用し、楽しみながらオリンピック・パラリンピックの歴史や意義について授業を行った。 ・講演に来て頂く北京オリンピック400リレー銀メダリスト塚原直貴氏の動画を見ることで、オリンピックである塚原氏へのイメージを膨らませ、オリンピックへの質問を考えさせた。  

(2)文化講演会

北京オリンピック陸上競技日本代表400m リレー銀メダリストの塚原直貴氏から講演をいただいた。

講演内容はこれまでの陸上競技者としての体験談はもちろん、日常生活で心にかけている姿勢や考え続ける事の大切さなど多岐にわたった。本校生徒にとっては夢や目標を達成された塚原さんの考えに触れる中で、生徒それぞれが夢や目標を達成する為に、何か必要な事なのか自己を振り返る大きな契機となった。また、北京オリンピック後に、ジャマイカのドーピング使用による失格により、日本が銅メダルから銀メダルへ繰り上がった時の複雑な心境など興味深い話もなされた。

塚原さんの9秒台で走る目標に対して、あと0.1秒を縮める為に必要な探究心や努力などは、学生にとって部活動はもちろん審査や入試、就職試験という目標に対して自分なりに創意工夫し、取り組む事と同様と話された。生徒にとって、塚原さんはオリンピックで活躍された特別な存在とってはいたものの、目標に対して努力する過程は自分たちもオリンピックと何ら変わらない事と気づかされ、今後の生活を頑張っていきたいとする前向きな姿勢が見られた。

講演後には、生徒から「ロシアの組織的ドーピング問題についてどう思われますか」など高校生らしい国際的で社会的な質問が挙げられ、そのような質問にも丁寧にお答えいただいた。



6 主な成果

(1)事前学習

・オリンピック・パラリンピックの歴史や価値を認識させるとともに、実際に講演に来ていただけるオリンピックアンに対する質問を考える事で、オリンピックやオリンピックアンについて具体的に考えることができた。

(2)本事業

生徒の感想文から以下のような学びがあった。

・目標を達成する為に先を見通して計画すること、自分の中でルールを決めたり、目標を言葉にしたりするなど大切な事をたくさん知ることができました。これからはスポーツだけでなく日々の様々なことに役立てられると思うので、実践していきたいと思いました。

・塚原さんは、「結果だけではなく、それまでの過程を大切にしている」とお話をしていました。私は試合に負けたとか、テストで良い点数を取れなかったなど結果を気にしていましたが、これからはそれまで練習をどう頑張ったのか、こうしたから駄目だったなど、過程を考えていきたいです。また、良かった時の過程も大切にしたいです。

・リレー選手4人が全員でタイムを縮める為に、それぞれが役割を理解し、チームの為に頑張ることが大事だと分かりました。自分ができる事は誰かに手伝ってもらおうことなどがチームで強くなる為に必要だと分かりました。私は卒業後に働く介護の仕事でもチームワークを大切にしていきたいです。



	<ul style="list-style-type: none"> ・ドーピングをやってはならないというのは当たり前のことだと考えていました。しかし、世界全体に目を向けたとき全てが本当に悪いのかどうか分からなくなってしまいました。世界には恵まれない国が多くあります。その日の生活に困っている国であれば、ドーピングをやってはいけないの一言で終わらせてはいけないのではないかと思います。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・久慈市では、柔道をはじめとしてスポーツへの関心が高く、地域の中で武道やスポーツを指導する環境は整ってはいるが、少子高齢化や価値観の多様性などの影響もあり、運動を行う生徒の数は減少している。本事業を通して、スポーツを行なう事の価値を再認識させることができた。 ・へき地という事もあり、有名選手と接する機会が少ないが、本事業を通してオリンピックの貴重な講演を聴けた事で、自己の人生について考える機会となった。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省では、講演だけでなく講師の方に実演する場を提供し、実演を交えて頂くなどの意見もあったが、会場が本校ではなく久慈市文化会館で行う事や全校生徒を対象とするという条件の為、講演のみという形になってしまった。来年度も継続する場合には、競技種目によると思われるが、その会場内で出来る実演を行って頂くよう要望する。
9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・未定(検討中)

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【岩手県】

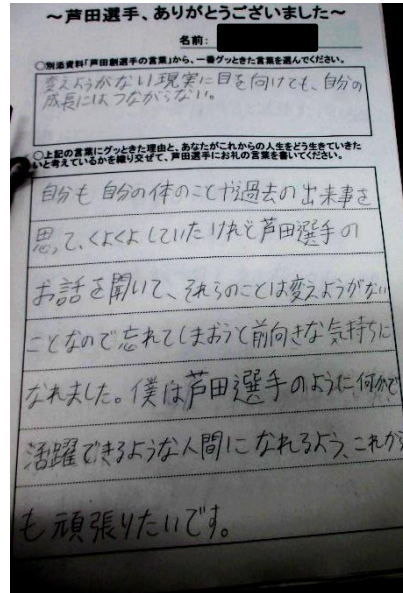
1 実践テーマ	【V】
2 実施対象者	岩手県立盛岡となん支援学校 中学部・高等部生徒49名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 体育、保健体育 ）
4 目標 (ねらい)	(1) 本物のパラリンピアンから話を聞くことで、夢を抱くことの大切さや喜びを知るとともに、障がいのある自分たちにも、夢を実現するチャンスがあることを知る。 (2) 普段身近で目にすることがないトップアスリートの生き方を知るとともに、パラリンピアンをの身体能力を直に見ることで、人間がもつ可能性を体感する。 (3) 事前学習およびパラリンピアンとの交流を通し、パラリンピックおよびパラリンピアンに対する興味関心を深める。 (4) 日本を代表して戦うアスリートに対し、応援する気持ちと敬意をもつ。
5 取組内容	(1) 事前学習 ① パラリンピックについて ※学習内容をまとめたものを廊下に掲示する。 ② 芦田創選手について ③ 講演会と交流について ④ 応援祈念品（うちわ）作り (2) パラリンピアンによる講演と交流 ① 芦田創選手（陸上跳躍 上肢障がい）の講演「より遠くへ」 ② デモンストレーション「教師とのゴム跳び対決」 ③ 交流「ターゲットポッチャ」 (3) 事後学習（教育課程別） ① 感想文作成（通常学級） ② 芦田選手クイズ！（重複学級A） ③ 講演・交流まとめポスターの作成（重複学級B）
	 <p>芦田創選手 講演会</p>  <p>ポッチャ交流</p>



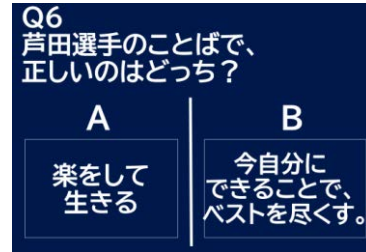
応援祈念品（寄せ書きうちわ）の贈呈



記念撮影



生徒の感想文兼お礼状（通常学級）



芦田選手クイズ！（重複学級A）



まとめポスター（重複学級B）



芦田選手からのメッセージ（重複学級B）



パラリンピックストリート



芦田選手応援コーナー

6 主な成果	<p>(1) 事前学習とともに、体育での学習の際に通る廊下にパラリンピックに関する掲示を行ったことで、パラリンピックに対する興味関心を高めることができた。</p> <p>(2) 実際にアスリートが講演やデモンストレーションを行う事で、世界を相手に戦うアスリートの身体能力や、その強い生き方を実感することができた。</p> <p>(3) 選手と一緒にできるスポーツで交流を行ったことや、応援祈念品の作成と贈呈、エールを贈ったことで、アスリートに対する興味関心や敬意、応援する気持ちを高めることができた。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) パラリンピックの歴史や理念について、生徒の実態に合わせて写真等を活用しながら説明をした。</p> <p>(2) 児童生徒の興味関心を高めるため、体育館近くの廊下に「パラリンピックストリート」を設け、全22競技の紹介をはじめとした掲示を行った。掲示にあたっては、インパクトのある掲示を心がけた。</p> <p>(3) 交流ではパラリンピックの正式種目でもあり、かつ本校生徒の多様な実態においても同じ土俵で勝負ができるポッチャを行った。また、得点が低い方に芦田選手が投げた得点が入る「芦田ポイント」を設け、一緒に戦う意識が高まるようにした。</p> <p>(4) 事後学習は教育課程別に行い、講演内容をそれぞれの実態に合わせて振り返ることができるようにした。</p> <p>(5) 講演内容を「メッセージ」としてまとめ掲示し、全校児童生徒が継続的に目にすることができるようにした。また、簡単な言葉に直したのも一緒に掲示することで、児童生徒がそれぞれの理解力に合わせて読むことができるようにした。</p>
8主な課題等	<p>(1) ポッチャや各種車いす競技など、本校児童生徒の実態でもできるスポーツに焦点化した指導もしてみたい。</p> <p>(2) 今回はパラリンピックに重点を置いたが、オリンピックについてもいずれ取り上げたい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>(1) 今年度の掲示にテレビの放送予定や注目選手を追加し、さらに興味関心が高まるようにしたい。</p> <p>(2) 次年度の実施については未定だが、児童生徒が生涯を通じてスポーツを通じた自己実現をすることができるような、その土台作りになる指導を今後も検討していきたい。</p>

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 岩手県 】

1 実践テーマ	【 I、V 】
2 実施対象者	岩手県立盛岡峰南高等支援学校 1～3学年 108名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) オリンピックに出場したときの様子を知り、来年、日本で行われる2020年オリンピック・パラリンピックをより身近に感じ、関心を高める機会とする。</p> <p>(2) オリンピック・パラリンピックの意義やオリンピックがどのような努力をしてオリンピックに出場したのかを知り、目標に向けて行動しようとする態度や障がいをもちながらも社会に主体的に関わっていく態度の育成を図る。</p> <p>(3) 世界レベルの陸上競技の練習方法を知り、今後のスポーツ活動に生かす。</p>
5 取組内容	<p>(1) 事前学習</p> <p>ア アンケート記入</p> <p>イ DVD 視聴 (オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料：スポーツ庁)</p> <p>ウ 自作プレゼンによる説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック、パラリンピックについて (コンセプト、マーク、大会シンボル、マスコット、競技種目、歴史、1964 東京大会、過去に活躍した選手) ・本事業について (学習の目的、来校するオリンピックについて) <p>エ プレゼン内容の掲示</p>



(2) 本事業

シドニーオリンピックマラソン競技出場市橋有里さん

ア 講演

「チャンスをつかむ3つの方法」という演題で、市橋さんの陸上との出会い、陸上をとおして体験してきた様々な出来事、それにより得た教訓など、エピソードを交えながらお話しいただいた。①出会いを大切にす



イ 実技

「走る」動作の基本として①姿勢②腕ふり③ももあげ、について一つずつポイントを解説していただきながら、実際に体を動かしてみた。



(3) 事後学習

感想シートへの記入、アンケートへの記入

6 主な成果

- ・事前学習を行った際は、生徒のオリンピック・パラリンピックに対する反応も薄く、期待感もあまり感じられなかったが、この事業をきっかけに「競技を見たい」、「応援したい」という声も多くあがり、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まった。
- ・市橋さんの講話の内容は、幼少の頃から、中学、高校時代のお話が中心であり、その中で出会った人との関わりなど生徒にとってイメージしやすく心に響く内容であった。生徒は、とても前向きな感想をもち、お話しいただいたことを今後の生活に生かそうとする意識が高まった。
- ・狭い体育館で100名ほどの生徒が一度に実技を行うことは難しいようにも思われたが、世界レベルの選手に指導をしていただいたことで、どの生徒も意欲的に体を動かし、走りの基本を知ることができた。毎年実施される支援学校のスポーツ交流大会に向け、皆同じ意識で練習に取り組むことができると感じた。

～生徒の感想より～

- ・一番はじめに興味を持ったのはバスケットボールなので、見てみたいし、応援したいです。
- ・私はバドミントンに興味があります。テレビで見て応援したいです。
- ・私はすぐに諦めてしまうので、諦めずに努力していきたいです。
- ・私はこれまで周りの人に感謝することがなかったので、意識して生活したいです。
- ・人との出会いを大切にしようと思いました。
- ・腕ふりや姿勢などが大事だと知り、私もフォームを意識して走ろうと思いました。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本校は年間をとおして実習や行事などで立て込んでいるが、生徒たちがより集中して本事業に取り組むことができるよう、行事等の落ち着いた時期に集中的に実施した。 • 事前学習では、学習の取りかかりとして、よりインパクトを高めるために、スポーツ庁制作のDVD視聴を行った。 • 講話・実技ともに、全ての生徒を対象として実施し、どの生徒にもオリンピック・パラリンピックをとおした生徒自身の意識の高まりが得られるよう配慮した。 • オリンピアンの方の来校に際しては、限られた時間ではあったが、生徒の集中力を考慮し、講話（座学）と実技（動きのある活動）に分けて実施した。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 年度が始まってから、本事業を実施することが決定したため、年間の指導計画の中に本事業を効果的に組み込むことが難しく、生徒が主体的にオリンピック・パラリンピックについて調べたり、意見交換したりする時間をとることはできなかった。 • 生徒の特性に配慮し、事前アンケートの実施から事後アンケートの実施までを1ヶ月の間で行ったが、オリンピック・パラリンピックについて、一部分しか触れることができなかった。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 来年度は開催年であり、夏休みにはオリンピック・パラリンピックが実施されることから、その時期までに講師をお招きした講演会などを実施することは難しいと思われる。しかし、オリンピック開催の前後の時期までは、全校集会や保健体育の授業の中で定期的にオリンピック、パラリンピックについて触れ、よりオリンピック・パラリンピックが身近となり、印象に残るような学習を展開していきたい。

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【岩手県】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	岩手県立花巻清風支援学校 児童生徒 220 名 教職員・PTA・地域関係者 80名 合計300名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育・保健体育) ② 行事名 (パラリンピアンとの交流会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	(1) 昨年のオリンピックに続き、パラリンピアンによる授業をとおしてスポーツの楽しさやスポーツに取り組む姿勢(心構え、態度)について知り、仲間とともに主体的に取り組む態度や公德心の育成・向上を図る。 (2) 児童生徒、教職員、PTA、同窓会及び地域の関係者にとって、オリンピック・パラリンピアンとの交流を励みとするとともに、共生社会に向けた理解推進の機会にする。
5 取組内容	(1) 事前学習 ・オリンピック、パラリンピックの歴史と目的 ・東京オリンピック、パラリンピックの競技種目、日程等 (2) パラリンピアン根木慎志さんによる講演・実技指導 ・講演～高校3年の冬に交通事故に遭って車椅子生活になり、知人の勧めでバスケットを始め経緯、競技の楽しさ、パラ五輪の魅力、現役引退後に全国の学校を巡って障害者スポーツの普及を通して共生社会を作るために取り組んでいることを話して頂いた。 ・実技～一発で3点シュート成功、ドリブルしながら会場1周など、素晴らしいプレーを披露。また、生徒・教員の各々選抜チーム同士によるゲームで、プレーヤーも観客も大いに盛り上がった。 【根木慎志さんから贈られたメッセージ】 「応援してもらえることの有り難さ」 ・友達から「がんばれ！」と声をかけてもらって、色んな事ができてきた！ ・応援してもらえば頑張れることを世界中の人に知ってもらえるように活動していく！ 「障害は世の中ががつくっている」 ・みんなが友達になって、理解し合えば障害をなくせる。誰かが車いすを担いで上げてくれれば障害ではなくなる。 ・目が見えなくても点字ブロックと杖、盲導犬がいてくれれば大丈夫。点字ブロックの上に荷物があると困るけど、どけてくれる人がいれば大丈夫。 「パラリンピックでいるんなことを感じてほしい！」 (3) 事後学習 ・事前学習及び講演・実技の振り返り



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 根木さんから「世界中の人たちが困っている人に気づいて、応援してもらったり、理解してもらって助けてもらえれば障害でなくなる。皆さんも一生懸命楽しめることに会ってほしい。」と熱いメッセージを送っていただき、明るく前向きな姿勢に接して、参加者全員が元気と勇気をいただいた。 車いすスポーツを初体験した生徒は、「車いすを動かしてパスやシュートをするので難しかったけど、体験できて楽しかった。世界中の人と友達になれればいいという話は心に残った。」と満足顔であった。 児童生徒、教職員、保護者及び地域の方々にとって、直接パラリンピアンに指導を受け、スポーツの価値を再確認し、パラリンピックを身近に感じることができ、東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成によい契機となった。 根木さんの子ども達への接し方や共生社会の構築に向けた日頃の取組の姿勢は、教職員にとって大変よい学びとなったと校長も絶賛だった。 	
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒・教職員・PTA・来校者に啓発を図るため、廊下の掲示板上にオリンピック・パラリンピックコーナーを設置した(右の写真) パラリンピアンとの交流会前に、全校集会時において、オリンピック・パラリンピックについて理解を図った。 各学部ともボッチャ等パラスポーツを授業に取り入れ、パラリンピックについての興味・関心を高める取組を進めた。 児童生徒の実態に合わせ、実技の内容を小学部と中・高等部に分けて実施した。 生徒代表からお礼のことばと手作り作業製品を記念品として贈り、感謝とエールの気持ちをこめて校歌斉唱した。 	
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後、児童生徒が卒業後も含めて、校外でスポーツを実践できる場、環境をどのように作っていくのか、行政や自治体、県・市体育協会、県障がい者スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブなどの関係機関・団体との連携と、コミュニティ・スクールに向けた地域との連携、協力体制作りを推進して、生涯にわたってスポーツに取り組める環境づくりが求められる。 	
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も継続実施したい。 	

【盛岡市立見前中学校】ボッチャ体験

- ① 実施日時 令和元年10月21日(月)
- ② 場 所 盛岡市立見前中学校体育館
- ③ 対 象 2年生 165名
- ④ 講 師：文化スポーツ部スポーツ振興課 佐藤 慎二 氏
(岩手県障がい者スポーツ協会 三浦 拓朗 氏)
(日本卓球バレー連盟普及委員長 堀川 裕二 氏)
- ⑤ 事業内容(実技)
 - 9:00～9:40 テープ貼り(6m×6m 6コート設営)体育館半面に設営
 - 9:50～10:40 2校時 2年2組
 - 10:50～11:40 3校時 2年3組
 - 11:50～12:40 4校時 2年1組2年4組と2年5組は10月23日(水)に行った。
- ⑥ 実技内容
 - ・事前に6人1チームを作っておく。
 - ・6人で1コートに入る。赤チームと青チームに分かれる。(3人対3人の対戦)
 - ・ボッチャの紹介(各班長がデモンストレーション、周りで見学)
 - ・それぞれのコートに分かれてゲームを行う。
(ゲームの進め方、戦略の説明、ルール説明、体勢を変えて体験)
 - ・ランプ(補助具)を使つての競技者と介助者の体験



ボールを一人2個使う。



白のボールに近づける。



白ボールに遠いチームが投げる。



ランプを使って介助体験。



介助者は後ろを振り返ることができない。



ランプ(補助具)